

次期「学習指導要領」では、改訂のポイントとして「語彙指導の改善・充実」と「情報の扱い方に関する指導の改善充実」が示されました。話や文章に含まれている情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることは、正確に理解し適切に表現する力を育成することにつながります。『伝え合う言葉 中学国語』では、育成したい「論理的思考」と、それを培うために身につけたい表現を小学校の学習から積み上げ、展開しています。

→ 小中9年分の資料は、教育出版ホームページを参照してください。

論理的思考と身につけたい表現の学年展開：小学校

論理的思考と身につけたい表現の学年展開：中学校（『伝え合う言葉 中学国語』）

論理的思考力 ・判断力 ・表現力	第5学年及び第6学年		第1学年			第2学年			第3学年					
	育成する思考力	身につけたい表現の例	育成する思考力 (学びナビ)	教材で身につけたい表現例	学習課題・学習活動	育成する思考力 (学びナビ)	教材で身につけたい表現例	学習課題・学習活動	育成する思考力 (学びナビ)	教材で身につけたい表現例	学習課題・学習活動			
比較・分類・順序	共通点を見つける	……に注目すると、○○と××には……という共通点が見つかります	比較する 共通点を見つける 相違点を見つける	○○と××は、……という点で同じだ（共通点がある） ……を比べると、共通点は…… ○○と××では、……のような違い（相違点）がある ……には、……とされていた 例えば……では、……	書く『資料から得た根拠をもとに意見文を書く』（P41）  書く『根拠を明確にして意見文を書く』（P99）	比較する 相違点を見つける	……には、……という共通点（相違点）があります ……と比べると、……です	話す聞く『相違点を明確にして聞く』（P207）  読む『観点を明確にして読み比べる』（P46） 『日本の花火の楽しみ』、P54『水の山 富士山』	比較する	……と比較して、	書く『説得力のある批評文を書く』（P103）			
	相違点を見つける	……に注目すると、○○と××には……という相違点が見つかります		分類する	書く『材料を整理して案内文を書く』（P71）		計画する 順序づける  組み立てる 順序づける	……を計画します ……の順序を考えると、……です		話す聞く『説得力のある提案をする』（P61）  書く『構成を明確にして手紙を書く』（P65）	組み立てる 順序づける	まず、……です いちばんは、……です まとめると、……です	話す聞く『構成を考えて主張をまとめる』（P57）	
	比較する	○○と××を比較すると、○○は××に比べ……です ○○が……なのに対し、××は……です												書く『情報をまとめて作品集を作る』（P239）
	分類する	……に着目すれば、○と×、△と□に分けられます												
関係づけ	事例をあげる	例えば、……を例にとって…… 例をあげれば、具体的にいえば、	関係づける 観点を絞る 限定する	……を規準にすると、……のように整理できる	話す聞く『内容を整理して説明する』（P47）  読む『論理の展開を捉える』（P86） 『森には魔法つかい がいる』	関係づける 根拠をあげる	……に対して、	書く『説得力のある批評文を書く』（P103） 読む『主張のよりどころを捉える』（P90） 『async——同期しないこと』、P96『問いかける言葉』	限定する	これは○○の場合には成り立つが、××の場合には成り立たない ……の場合には、……です どのように直せばよくなりますか	話す聞く『表現の工夫を評価してスピーチをする』（P201）			
	理由をあげる	……からです なぜなら……からです その理由として……があげられます		○○に着眼すると……のように整理できる			話す聞く『発言を結びつけて話し合う』（P223）			結論づける まとめる		書く『情報をまとめて作品集を作る』（P239）		
	条件づける、限定する	もし……ならば、仮に……だとすれば、……に限っていえば……以外に……ない		あるいは、あわせて、……という観点から考えると、……です ……に着目すると、……です										
	結論づける	あてはめてみると……ということがわかります／といえます ……のように要点をまとめることができます たしかに、なるほど、以上のことから、つまり		……をまとめると、……になります ……ということから、……といえます										
分析・考察	特徴を見つける	……から……のように整理できます 特に……から……のようにまとめられます 加えて	課題を見つける 課題を提示する	……となっているのはなぜなのか (……の仕組みは) どのようになっているのか	書く『随筆を書く』（P165）	課題を設定する	……から、……ということがわかります ……について○○の観点から考えていく ……の大きさ（題をつける） ここでは、……について明らかにします	話す聞く『観点を明確にして伝える』（P81） 書く『新聞の投書を書く』（P37）	一般化する	どのような場合にも……となることから、……であるといえる このことから、……には、……という特徴がある これは……の場合にも成り立つ（あてはまる） 誰にでも（誰の場合でも）、……です	話す聞く『意見を共有しながら話し合う』（P235）  書く『具体例をもとに説明文を書く』（P81）			
	予想する	……ならば○○も……といえます おそらく		……だとすれば、……のように考えられる これは……のように考えられるのではないかと ……すると、……になります ……したら、……と考えられます	話す聞く『調べた内容を聞く』（P179）									
	定義する	……という結論になります／結論は……ということですから、……であるといえます ……といえる／となったのは……だからです ……が起きたため……のようになりました ……となるのは、……のような場合です		……に賛成（反対）の立場ならば、……となる（はずだ） ……でも同じことがいえます そのことは、……にもあてはまりますか ……のように考えると、……といえる（はずだ） ……の観点を立てば、……と考えるはずだ	話す聞く『よりよい結論を導く討論をする』（P233）  書く『根拠をもとに意見文を書く』（P115）									
評価	評価する	……のように考えると、正しいことがわかります ……から、そのように考えてよいことがわかります ……の点から、問題があるといえます	評価する	まずわかったことは……、次にわかったことは……、よって、そのように考えてよい	書く『読み手を意識して報告文を整える』（P219）  メディアと表現『広告の情報を考える』（P102）	検証する	……にあてはまらない場合はないか なぜ……といえるのか／……といえる 証拠はあるか なぜ……かという点、…… ……のように考える前提は何か	書く『自己PR文を書く』（P197） メディアと表現『ニュースの情報を吟味する』（P108）						

## ○参考「次期学習指導要領の指導事項の構成」

〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項 語彙	小学校		中学校	
	低学年 才	身近なことを表す語句	第1学年 ウ	事象や行為、心情を表す語句
	中学年 才	様子や行動、気持ちや性格を表す語句	第2学年 工	抽象的な概念を表す語句
	高学年 才	思考に関わる語句	第3学年 イ	理解したり表現したりするために必要な語句

〔知識及び技能〕 (2) 情報の扱い方に 関する事項	小学校			中学校		
		ア 情報と情報との関係	イ 情報の整理		ア 情報と情報との関係	イ 情報の整理
	低学年	共通、相違、事柄の順序など		第1学年	原因と結果、意見と根拠など	比較や分類、関係付けなど
	中学年	考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など	比較や分類の仕方	第2学年	意見と根拠、具体と抽象など	情報と情報との関係の様々な表し方
高学年	原因と結果など	情報と情報との関係付けの仕方	第3学年	具体と抽象など	情報の信頼性の確かめ方	

# 「語彙指導」と「情報の扱い方に関する指導」に着目した授業実践の視点

語彙を関連づけて、筆者が使用している語彙の特性を捉える

## 2年P194 『ガイアの知性』 (龍村仁)

### ○筆者の考えと語彙の選択

説明的文章において、筆者の考えは、語彙選択に表出すると考えます。この視点で、接続表現や文末表現とともに、筆者により選択された語彙特有の性質(語彙特性)を見いだすことは、文章の読解に直結します。

『ガイアの知性』には、動物と人間を二項対立と見る、筆者による明らかな語彙選択が見られます。そのため、対比表現の語彙から筆者の考えを捉えていく能力を高める教材として適しています。

### ○『ガイアの知性』における語彙の特性

本教材は、高度な知性をもつ鯨や象の例を示すことで、人間を万能とする考え方に疑問を投げかけています。動物の知性に学び、人間の知性からガイアの知性に進化する必要性を、動物の知性と人間の知性を対比させることにより主張しています。

そのことが、本文に示された語彙特性に表れています。筆者は、動物と人間に対し、対義語を選択して対比関係を示し、「動物の知性に人間が学ぶ」ことを主張しています。

さらに、一般的には「人間が上位で動物が下位」という認識をもつ読者に対し、動物を人間と対等かそれ以上に扱うために、「つき合う」「決意する」「亡くなる」など、普段は人間に対して使用する語彙を、動物に使用しています。逆に人間には、「ちっぽけな」「立たせてやる」など弱々しく頼りなさを連想させる語彙を使用しています。つまり本文において動物には「擬人的な語彙」、人間には「軽視する語彙」を選択するという語彙特性が見えます。(下図参照)

### ○読解の方策

まず、「論理的思考力・判断力・表現力」(表面参照)の第一段「比較・分類・順序」から、対比表現の語彙における観点(動物・人間)を見つけ、あてはまる語を分類・整理します。次に第三段「分析・考察」から、動物・人間の各カテゴリーの中で対になっていない語彙から自分の知識や経験と照らし合わせ「動物↓擬人的な語彙」「人間↓軽視する語彙」の視点を見つけてカテゴリー化します。さらに語彙特性とあわせて接続表現や文末表現に着目し、本文の内容や筆者の考えを捉えます。

### ○指導の展開例

次のような過程で対になる語を見つけしていきます。

- ① 本文から対義語を探し、短冊に書く。(4人グループ)
- ② 短冊を黒板に掲示し、カテゴリーを作るために全体で話し合う。
- ③ 話し合いから「人間」「動物」が大きなカテゴリーとしてあげられる。対義語が「人間」「動物」のどちらのカテゴリーに入るかを全体で確認し、対義語どうしをカテゴリーの中へ配置する。
- ④ 対義語ではないが、動物や人間に対して筆者が使っている語を探し、それぞれの語彙特性を話し合う。
- ⑤ 語彙特性が見つからない場合は、本文に表出する「肉親」を例に、普段の経験から、人間と動物のどちらに対して使用するかを考えさせることで、筆者の語彙特性に気づかせる。
- ⑥ 筆者は、動物と人間の知性の違いを語彙特性によって印象づけていることを全体でまとめる。

おぼえた語彙特性とともに、

・ 問いをたどるための文末表現「だろっか」

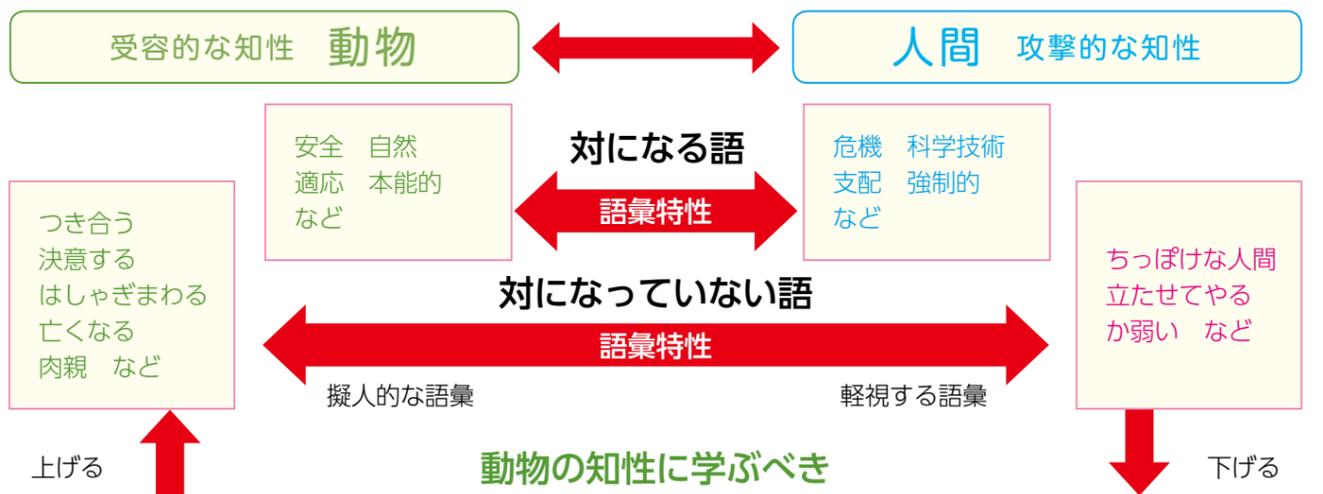
・ 推論をたどるための文末表現「だろっ」「や接続表現「たぶん」

・ 主張をたどるための文末表現「だ」「ひめる」「のだ」

にも注目し、筆者の主張を捉えていきます。

文中の語彙を整理して見ると、筆者の考え方がよく現れていることがわかるね。

## 『ガイアの知性』に見る語彙特性



## 語彙のデータベース「コーパス」と『伝え合ひ言葉 中学国語』

新聞、雑誌、書籍、広告、教科書、また、インターネット上などには、数え切れないほどの言葉が記録され、流通しています。日本語の言葉については、国立国語研究所が、このような膨大な言葉のデータベースを書き言葉のコーパスとしてまとめ、誰でも利用できるように公開しています。

『伝え合ひ言葉 中学国語』では、このようなデータベースを活用し、どのような言葉が、どのようなところに、どのくらい、どのような表現の中で出ているかを検証しながら、教科書での語彙の扱いを考えていきます。

